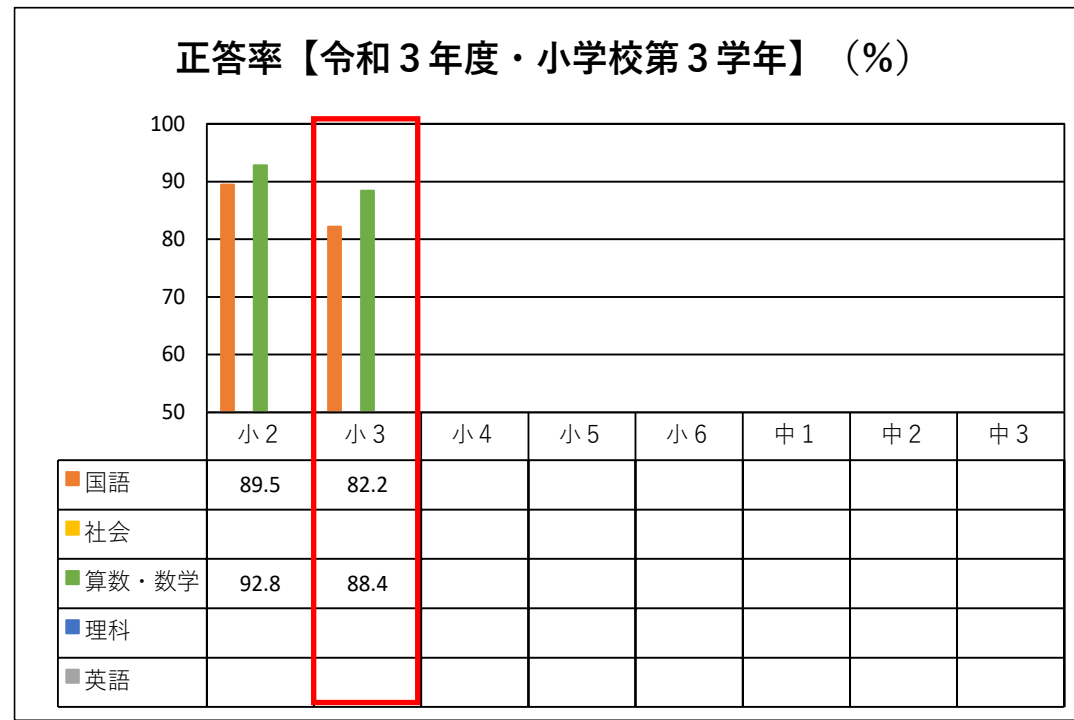
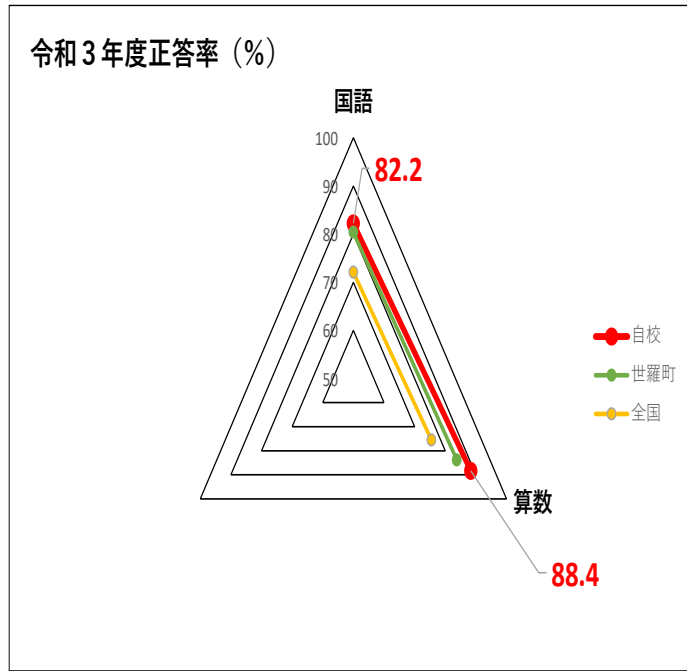


令和3年度標準学力調査 指導方法等の改善計画【せらにし小学校 第3学年】



教科	正答率 (%) 【全国比 (P)】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	本校正答率 【全国比】	児童の誤答の傾向と分析 (○)、教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための＜指導場面 (指導時期)＞と具体的な取組	目標値	検証値 【4月調査比】
国語	教科全体	82.2 【+10.1】	知識・技能 6 (2) 情報と情報との関係について理解し、相手に伝えるように、事柄の順序を考えている。＜小学校1・2年知・技 (2) ア 1・2年思判表A (1) イ＞	36.4% 【+14.3P】	○誤答した児童の全員4名 (11人中) が1を選択している。これは、【せつ明のれんしゅう】の文章中に、「はじめにしておくこと」と、「その後すること」の両方に、似ていたり同じ「つなぎ言葉」を使っていたりするためだと考えられる。 ●文章を読んで内容を把握するにあたって、「つなぎ言葉」と記述内容を関連付けたり、重要な言葉を選び出して読んだりする指導が不十分であったと考えられる。	≪「れいの書かれ方に気をつけて読み、それを生かして書こう すがたをかえる大豆 (11月)」≫ 「筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章をかこう。」という読むことと書くことを関連させた単元構成をする。そのうえで、読むことと書くことの2つの領域において、それぞれ考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解できることをねらった指導を行っていく。	正答率 72.8%	% 【P】
	知識・技能	75.0 【+3.7】						
	思考・判断・表現	81.8 【+16】						
	主体的に学習に取り組む態度	83.6 【+25.6】						
算数	教科全体	88.4 【+12.9】	知識・技能 3数の大小と不等号の意味を理解している。＜小学校2年A(1)ア (イ)＞	54.9% 【-11.8P】	○誤答した児童は3名が3、2名が2を選択している。2を選んだ児童は等号の意味が理解できていないため、3を選んだ児童は問題の条件を正しく把握しないまま解答したためと考えられる。 ●与えられた条件をしっかり把握した上で、数の大小と不等号の意味をもとに判断することの指導が不十分であったと考えられる。	≪「一万をこえる数」大きな数のしくみ (6月下旬)」≫ 「大きな数の大小のくらべ方を考える」という学習課題を設定する。まとめにおいて、児童各自が「○の位の数字を見て判断する。」「比べる位の数字に印を付けて判断する」といった記述となるよう展開していく。その上で、不等号や等号を使って、数の大小関係を判断できるよう指導する。	正答率 81.8%	% 【P】
	知識・技能	90.2 【+11】						
	思考・判断・表現	80.3 【+20.7】						
	主体的に学習に取り組む態度	83.8 【+14.8】						